

# 「小さなサインが見えますか」

## 第4章

### 「いじめを発生させない 環境づくり」



# 第4章 いじめを発生させない環境作り



### 授業づくりのポイントは？

- ① グループで協力して調べたり、試したり、話し合ったりする場面を取り入れる。
- ② 友達の発言や意見を尊重し、温かく受け止める姿勢をもつように働き掛ける。
- ③ 児童生徒が体験的、問題解決的に取り組める教材開発や単元の工夫をする。



### 学級づくりのポイントは？

- ① 児童生徒の心の居場所づくりのために、互いに個性や長所を認めあって存在感や充実感を味わえるようにし、不正を許さず、安心して生活できるルールを確立する。
- ② 児童生徒が互いに関係を深めるために、授業や行事等で助け合って活動したり、学級の諸問題を解決したりすることで成就感・満足感を味わうことができるようにする。
- ③ 教師間の連携を深めるために、問題を一人で抱え込まず、学級・学年の児童生徒の生活の様子について共通理解を図るようにする。

### 人間関係づくりのための手法は？



【構成的グループエンカウンター】  
児童生徒同士が本音を表現し合い、互いに認め合う体験的な活動で、信頼感や自尊感情を高める。

【ピア・サポート・プログラム】  
ロールプレイングを活用し児童生徒の社会スキルを育て、互い（ピア）に支え合う関係を作る。

【ソーシャル・スキル・トレーニング】  
小集団で、児童生徒が互いを助け合い認めることで、コミュニケーション力や社会性の育成を図る。

### 学校全体の取組は？

- 日常的な相談活動や定期的な実態調査を実施し、いじめ不登校対策委員会等を必要に応じて開催する。また、関係機関との連絡調整を図る。
- 学校全体でいじめなどを取り上げた道徳教育を推進する。
- 児童生徒が中心となって、いじめ撲滅に向けた集会などを開催し、児童生徒が主体的に集団のルール等を決め、それを守っていくような態度を育てるようにする。
- スクールカウンセラーを活用して効果的な教育相談体制を確立する。  
※教育相談体制については、第5章を参照

### 家庭・地域・関係機関と連携するには？

- 家庭との連携を進めるには、日頃から、学校の教育方針、児童生徒の交友関係、生活の様子などについて、互いに傾聴し情報交換ができる関係をつくる。
- 地域との連携をすすめるには、学校側が地域行事に参加したり、地域の方に学校行事等に積極的な参加をしてもらったりして、「開かれた学校づくり」に心掛ける。
- 関係機関との連携を進めるには、日ごろからささいなことであっても相談したり、指導・助言を得たり、情報交換を行ったりして協力関係を築くようにする。

### 家庭で気を付けるよいことは？

- 子供たちの日常生活に十分目を配ることが大切。子供たちが発するサインを敏感にとらえられる家族関係を築くようにする。
- 家族で一緒に会話をしながら食事をする、野外活動を一緒に楽しむ、地域における行事等に参加するなど、積極的に家族の触れ合う時間をつくる。
- 子供たちを守り抜くという毅然とした姿勢を示し、子供たちが安心して悩みや問題を打ち明ける雰囲気を作る。